

JOMF 派遣医師便り (2015. 11)



東京大学医学部附属病院救命救急センター

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

2015年11月某日、東大病院救命救急センターで研修を受けてきました。患者さん一人一人の病態に的確・迅速に、そして優しく対応するすばらしい医師たちに出会いました。

研修は早朝のセミナーに始まり夜まで続きました。同救命・救急センターは年間救急車応需数6~7千名/年を超え(平成24年度)、この数は全国国立大学病院中でも1~2位です。食事をとる時間がないほどひっきりなしに救急患者が搬送されてきました。

その日の1例目は「“心肺停止”、救急車内で救急隊員が心肺蘇生術を施行しているが回復しない」という情報でした。救命救急センターでは救急専門医、心臓外科医、麻酔科医など10名以上が待機してその患者さんを待ちました。搬入時も心肺停止状態のまま、救命救急センター医師・スタッフが総力を挙げて患者さんに対応しました。集学的治療によって止まっていた患者さんの心臓は動き始めました。

その後も2階からの転落事故、虚血性心疾患疑い、大量の下血、意識消失発作、突然のめまいで動けない・・・など多くの患者さんが搬送されてきました。

救命救急センターの医師たちは最新の知識・経験に裏付けられた的確で迅速な診療を、そして患者さん・家族に謙虚に優しく対応していました。

医の原点を思い出させてくれた瞬間の連続体でした。

今後も継続的に東大救命救急センターで研修をさせていただき、学んだことを日常の診療に役立て、マニラの患者さんに反映できるよう精進していくつもりです。

皆さまお体大切にしてください。